

京のおみやげ帖



ユーキャン

一本の竹が 美しい和傘に生まれ変わる

和傘は一本の竹を数十本、均一に割る骨つくりからはじまる。竹は印を付けて割った後、元の順番に揃え直され、轆轤と呼ばれる木製の部品に糸でつながれる。ここで開閉できる骨組みがつくられるのだそう。和傘を閉じる時、数十本の隣り合う骨と骨とが、吸い付くようにびたりと収まるのは職人の技、そして骨が一本の竹からできているからなのだ。

数枚から、時には数十枚も真円に貼り上げられる。そして乾燥後、少しずつ形を整えながら折り畳み、元の竹のような円筒形に仕上げられる。亜麻仁油を引いて天日干しにし、漆、顔料で彩色、飾り糸や、藤巻などの化粧を施し完成する。これらの工程は細分化すれば数十に上り、開閉自由な精巧性、風雨に堪える耐久性、そして美しさが求められるため、非常に高度な技術が必要なのだ。

私が日吉屋さんを知ったのは、貼りが上がった和傘が日吉屋さんの向かいにある宝鏡寺の境内で、天日に干されていたから。人形の寺として知られる門跡尼寺の宝鏡寺には、お付き合いがあつて時折お邪魔するのだが、赤、白、紫、鮮やかな大輪の和傘が咲いた光景は、目が覚めるように美しく今も目に焼き付いている。

京都は伝統文化の息づく町、茶道や芸能、行事、儀式などにおいて、和傘は欠くことのできないもの、修理・修復も手がける日吉屋さんの存在は貴重だ。六月は、祇園祭の鉦町からの注文中で大忙しの様子だった。

京のてんてん 和日傘
UV加工 ¥12,600



和風照明「古都里-KOTORI」
¥60,900 京和傘の技術を日常生活に生かしたいとの想いが集まって生まれた。京和傘のように開閉ができるのが嬉しい。

体験コーナー



日吉屋では、和傘のことをもっとたくさんの方に知ってもらおうと、工房見学及びミニ和傘づくり体験工房を開いている。体験工房での製作の基本は、本格的な和傘と同じ。はじめに用意された骨組みを水平に開き、骨と骨との間隔が均等になるように振り分けていく。これが簡単に見えて結構難しい。1本1本の骨に刷毛で糊をのせ、選んだ和紙を貼り、骨との隙間ができないように和紙の上から糊をのばしつつへらで押さえていく。一連の作業は職人さんが丁寧に教えてくれるので安心だ。「普段の傘づくりで、一番難しいのは、どこですか」と質問すると、「番傘などでは貼る和紙も4等分に分かれていて、細い竹の上で紙を継ぐのが難しいですね」とのこと。傘を乾かす間、和傘の歴史や解説等、お話を聞けるのも魅力だ。乾いた傘を畳み、最後に「かっぱ」という飾り紙を紐で結わえつけて完成。思った以上に本格的なでき映えとなる。夏休みの自由研究に親子で訪れる方も多いか。各自で製作した傘は、専用の袋に入れて持ち帰る。そのままでもインテリアとして楽しめるが、別売りのライト(¥5,250)を付けたら照明としても利用できる。

- 【ミニ和傘作り体験工房】(要予約)
- 所要時間：約1時間～1時間30分
 - 参加可能人数：5名～20名
 - 対象年齢：小学校低学年以上
 - 時間：営業時間中で応相談
 - 料金：一般¥4,200 学生¥3,990 (5名以上一般¥3,990 学生¥3,780)

- 【工房見学】(要予約)
- 所要時間：約30分
 - 参加可能人数：5～20名
 - 料金：¥525 (木版、和傘絵はがき1枚付)
 - 実際に和傘にふれ、種類や歴史、取り扱い方法、和傘の材料や、道具、作り方などの説明あり。



宝鏡寺にて天日干し



株式会社 日吉屋

江戸後期に創業、現在では京都に残る唯一の京和傘製造元として、野点傘や番傘、蛇の目傘、舞傘など、和傘全般を取り扱っている。

- 京都市上京区寺之内通堀川東入百々町546
- TEL：075-441-6644
- FAX：075-441-6645
- http://www.wagasa.com
- E-Mail：info@wagasa.com
- 営業時間：10:00～17:00
- 定休日：月曜日、年末年始
- 取り寄せ：TEL、FAX、インターネットにより可